

2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日
承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
 例会場 勝山市市民交流センター
 〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地
 TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760
 URL : https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama
 Email:katsuyamarc@gmail.com
 ■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子
 編集発行・文責 公共イメージ委員会

会長メッセージ

～ 縁（えにし）
を継なく ～



第3105回 例会 (12月16日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



先日、戦後から現在までを
 団塊の世代（1947年～1949年）
 しらせ世代（1950年～1964年）
 バブル世代（1965年～1969年）
 氷河期世代（1970年～1984年）
 ゆとり世代（1987年～2004年）
 Z世代（1995年～2010年）
 α世代（2010年～現在）

と区別した資料を目にしました。

こうして並べると、それぞれの世代が、まったく異なる社会環境の中で育ってきたことがわかります。

高度成長、バブル、長い不況、そしてデジタル社会。時代が違えば、価値観や常識が違うのは当然のことです。

本日ゲストの青年会議所様は、まさにその時代時代の20歳から40歳若い力がまちづくりや青少年育成事業に正面から向き合ってきた組織だと思います。

この世代の感覚と行動力は地域にとって欠かせない存在です。

一方我々ロータリークラブは年齢や世代を超えて、多種多様な経験を持つ人が集う場です。世代が違えば、考え方も仕事観も違います。

しかし、その違いがあるからこそ、学び合い、補い合えるのだと思います。

青年会議所が「挑戦と行動」の場だとするならば、ロータリークラブは「経験を共有し、学び会える場」ではないかと感じています。

私自身は青年会議所で培われた経験が、ロータリーに繋がっていると思っています。

そして、両団体の根底にあるのは、やはり地域愛かと思えます。

世代を超えて手を取り合う事、これこそ地域の財産と考える次第です。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○RYLA受講生ご推薦のお願い

ガバナー事務所

○例会終了後、理事役員会を開催します。

●委員会報告

●親睦ロータリー家族委員会

幅田 浩二

21日（日）はクリスマス家族例会です。11:20に勝山市役所をバスが出発いたしますのでよろしくお願い致します。

●出席報告

山内 智子

12月16日 欠席3名 85.71%

12月9日 欠席4名 80.95%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

届出欠席

斎藤 清一郎

本日 プログラム	クリスマス 家族例会	12月23日 プログラム	休会	12月30日 プログラム	休会	1月6日 プログラム	新年例会
-------------	---------------	-----------------	----	-----------------	----	---------------	------

ゲスト卓話

本年度の活動報告

公益社団法人 勝山青年会議所 2025年度理事長 大平 重寿 氏



皆様、改めましてこんにちは。ただいまご紹介にあずかりました、公益社団法人勝山青年会議所の2025年度理事長を務めました大平重寿と申します。本日は、我々勝山JCがこの一年間、どんな思いで、どんな活動をしてきたのか、ご報告させていただきます。

私は昭和62年2月2日生まれの38歳。小学校の時に横浜から勝山に移り住み、野向小学校、中部中学校、そして京都の大学を出ています。実は、今の勝山市長と転校先から学歴まで全く一緒なんですよ（笑）。

大学卒業後は自動車ディーラーや広告・イベント会社に勤め、今年の5月からは「ファンク」という自分の会社を立ち上げて活動しています。

趣味はゴルフとお酒を飲むことです。

JC歴は2016年に入会して以来、今年で9年目。副理事長を経て、今年の理事長職を拝命しました。

さて、私たち青年会議所、通称「JC」とはどんな団体かというと、「明るい豊かな社会の実現」を理想に掲げ、地域を担う指導者を目指す青年の集まりです。

重要な特徴が二つあります。一つは、20歳から40歳までという厳格な年齢制限です。これは、組織を常に若々しく、果敢な行動力を持つ集団として保つため、40歳を迎えると現役を退く「卒業」を迎えます。

もう一つは、理事長をはじめ、すべての役職の任期が一年間に限られる「単年度制」です。

これにより、会員は毎年新しい立場で豊富な実践経験を積み、自己修練の成果を活動にフィードバックさせています。

そして、世界中のJCメンバーが共通して持つ三信条、「個人の修練、社会への奉仕、世界との友情」にのっとり、自己啓発と地域社会への貢献、友情の深化に励んでいます。活動を通じて培われた人材は、国会議員や知事、市長、地方議員など、様々な分野で日本のリーダーとして活躍しています。

今年一年、「つなぐ 行動と発信の循環」というスローガンを掲げ、活動を展開してきました。

メンバー間、行政、団体、地域の方々との「つながり」を大切に、活動で得た経験や知識を広く「発信」し、それが次の「行動」を生むという好循環を目指しました。

具体的には三委員会一事務局体制で活動しました。

① まちづくり委員会

「人と人をつなぐまちから期待応援されるまちづくり運動」

勝山左義長まつりへの参画（2月）

勝山の伝統行事に参画し、御神体作成や書き初め体験、どんど焼き・炎餅の販売を行い、地域の賑わい創出に貢献しました。若者が伝統文化に触れる良い機会となりました。

勝山の魅力、意見交換会（5月）

勝山へ移住された3名の方を招き、移住者ならではの視点から地域の魅力を伺いました。私たちが気づきにくい勝山の価値を再確認し、未来を考えるヒントを得ることができました。

勝山夜市開催（9月）

夜の街の活性化と花月楼周辺の賑わい創出を目的に、観光まちづくり団体や商工会議所青年部、行政など多くの団体と連携して開催しました。地域全体を巻き込んだ賑わいづくりを実現できました。

② 青少年育成委員会

「機会を創出し、明るい未来へとつなぐ青少年育成運動」

勝山市長と意見交換会（6月）

市長と子ども課の方をお招きし、勝山市が進める子育て政策やまちづくりの方向性をご講演いただきました。JCメンバーだけでなく、市内の若手経営者なども多数参加し、多角的な視点から勝山の未来を考える機会になりました。

家族で学ぶ防災体験デー（10月）

自然災害が増える中、子どもたちの防災意識を高めることを目的に、市や社会福祉協議会と共同で開催しました。被災生活体験や防災食の試食などを通じて、家族で防災を考えるきっかけを提供できました。

③ 会員拡大委員会

「次世代へとつなぐための会員拡大運動」

異業種交流会（4月）

勝山市在住の20歳から40歳の多様な方々を対象に実施し、参加者とJCメンバーとのコミュニケーションを深めました。結果として、ここから4名の新しい仲間が生まれるなど、組織の拡大に大きく貢献しました。

効果的なSNS発信セミナー（7月）

インフルエンサーの方を講師に招き、SNS発信のコツを学びました。これはJC活動だけでなく、メンバーの社業にも活かせる内容であり、発信力向上への意識が高まりました。

理念共感講習（11月）

青年会議所の歴史や理念への理解を深めることを目的に開催し、メンバー間の意識統一と組織としての一体感を高めることができました。

最大の成果として、委員長を中心にメンバー全員が毎日アンテナを張り、精力的に活動した結果、今年度は目標の10名を上回る11名の拡大に成功いたしました！来年度は25名体制でのスタートとなります。この成果を来年以降もつないでいきたいと考えております。

④ 事務局

「計画的で質の高い会議運営と地域とつながる情報発信」

事務局は、理事会や総会など各種会議の円滑な準備・運営を担当し、組織のスムーズな活動を支える下支え役を担っていただきました。また、ホームページやSNSの管理、情報誌「若いわれら」の発行など、組織の広報機能も担当し、地域への情報発信を積極的に行いました。現在、勝山JCのInstagramのフォロワーは565名まで伸びています。



@2025_JCI_KATSUYAMA

フォローお願いします！

この一年間「このまちを良くしたい」という共通の思いのもと、若きリーダーとして、叡智、勇気、情熱を結集して活動してまいりました。「おごることなく常に謙虚な姿勢で学び続けること」「模範となるべく行動を示すこと」をメンバーに繰り返し伝え、行動し、発信することを積み重ねました。この「つなぐ 行動と発信の循環」の積み重ねこそが、地域の皆様と「まちを良くする」という思いを共有し、未来につながる確かな一歩になったと信じております。簡単ではございますが、以上で活動報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。